

佐読進協第8号

平成25年5月20日

読書推進運動協議会員長 様

佐賀県読書推進運動協議会長

「読書推進運動」について（送付）

公益社団法人読書推進運動協議会から送付されましたので、お送りします。

【担当】

佐賀県読書推進運動協議会 事務局（佐賀県立図書館） 諸岡

〒840-0041 佐賀市城内二丁目1番41号

TEL：0952-24-2900

FAX：0952-25-7049

Eメール：morooka-hidetaka@pref.saga.lg.jp

# 読書推進運動



公益社団法人  
読書推進運動協議会

〒162-0828  
東京都新宿区袋町6  
日本出版クラブ会館内

TEL 03(3260)3071

FAX 03(5229)1560

発行人 岩田 玄二

編集人 片岡 伸子

定価60円

会員の購読料は  
会費の中に含まれる

No.546

★「野間読書推進賞」受賞候補者推薦のお願い (2頁)

★「読書週間」ポスターイラスト、標語募集 (8頁)



## 「ビブリオバトル」開催への道

ビブリオバトル普及委員会 代表  
立命館大学情報理工学部 准教授

谷口忠大

「本を通じて人を知る、人を通じて本を知る」、これがビブリオバトルの妙である。いま、全国の図書館や書店、そして、一般企業、大学、小中高等学校とさまざまな広がっているビブリオバトルであるが、その本質は、参加者がワイワイと交流する「コミュニケーションの場づくり」である。ビブリオバトルの開催は簡単で、4名程度の人数から遊ぶことができる。ビブリオバトルを図書館などで開催する場合、集客は?、「イベント」として成功するか? など、つい大規模に考える方も多いが、そこはあまり本質ではないと思う。ほか、古き良き「紙芝居」や「読み聞かせ」にも近い、小規模か

つ身近なイメージである。ここでビブリオバトルの公式ルールを確認しておこう。

1. 発表参加者が読んでおもしろいと思った本を持って集まる。
2. 順番に一人5分間で本を紹介する。
3. それぞれの発表の後に参加者全員でその発表に関するディスカッションを2〜3分行う。
4. すべての発表が終了した後、「どの本が一番読みたくなったか?」を基準とした投票を参加者全員が一人一票で行い、最多票を集めたものを「チャンプ本」とする。

がある。一度プレイしてみればご理解いただけると思うが、ビブリオバトルでの「チャンプ本」は、勝ち負けを決めただけのものではない。「チャンプ本」を決めることにより、みんながおもしろい本を探してくる活動や、発表者と聴衆をより真摯に参画させる効果、スポーツとしてのドキドキ感など、数多くの派生的効果が生まれることが重要となる。「チャンプ本」を媒介に、新しいコミュニケーションの場がそこに誕生するのだ。

図書館での開催への道筋を考えてみよう。ビブリオバトルはだれでも自由に開催できるので、まずは小規模に始めてみてはどうだろうか。思い切った人自身が、まわりの人を集めてやってみよう。子ども相手に行う「読み聞かせ」の延長と考え、図書館員自身で試してみるのが一番である。公開すれば来館者とのコミュニケーションの機会になるし、なにより読書の引き出しが多い図書館員の個性が、ビブリオバトルを通じて明らかになるのはおもしろい。

また、来館者自身に発表してもらおう方法もある。ビブリオバトルがコミュニケーションの場づくりの手法であることを理解し、くりかえし開催することで、ゆつくりとコミュニティを育てるのもよいだろう。一度きりの派手なイベントではなく、長期的、継続的なコミュニケーションの場と位置づけていきたい。

ビブリオバトル普及委員会では、紹介動画やその他の情報の公開を、WEBを通じて行なっている。ぜひ参考にしたいいただきたい。より詳しくは、「ビブリオバトル―本を知り人を知る書評ゲーム―」(文春新書)もご一読願えれば幸いである。楽しい読書とコミュニケーションを!

### 天候に恵まれ、大盛況!

■「第14回 上野の森フェスタ」開催

5月3日(祝)〜5日(祝)の3日間、東京都台東区の上野恩賜公園を中心、「第14回 上野の森フェスタ」(主催/一般財団法人出版文化産業振興財団、子どもの読書推進会議)が行われた。

上野公園中央噴水池広場で行われた「チャリティ・ブック・フェスティバル」には、多くの出版社のテントが並び、約4万冊の絵本や児童書が読者謝恩価格で販売、初日の開会前から多くの人が入場待ちをするなど、お気に入りの一冊を探す子どもたち、子どもと一緒に楽しめる本を求める大人たちが詰めかけた。そのほか、作家による読み聞かせ会やサイン会、「全国訪問おはなし隊」のキャラバンカー展示とおはなし会、バルーンアートや煮干しの解体体験などのイベントも数多く開催された。

講演会は、東京都美術館講堂、東京国立博物館平成館大講堂で実施された。プログラムは、あんびるやすこさん(児童文学作家、画家)「物語がはじまる時〜魔法の庭にまかれたお話のタネ」、石



連日、多くの来場者が詰めかけた「チャリティ・ブック・フェスティバル」

橋洋司さん(作家)・池田美代子さん(作家)「青い鳥文庫スペース対談」、大友剛さん(ミュージシャン、マジシャン)、「マジックと音楽と絵本」の親子LIVE、「ねこのひート」出版記念公演、たかいよしかずさん(絵本作家)「ほか絵本作家になった理由」の4本。人気作家の創作の裏側が聞けるとあって、いずれも多くの参加者を集め、好評だった。今年も3日とも天候に恵まれ、売上げは3230万円で、最高記録を更新した。なお、収益は、東日本大震災被災地の子どもたちの読書活動支援費などに充当される。

### 第43回(平成25年度)

## 「野間読書推進賞」

### 受賞候補者推薦のお願い

公財社団法人 読書推進運動協議会は、読書の普及に貢献し、讃えられるべき業績をあげながらも、報われることの少なかつた個人および団体を顕彰してまいりました。

この賞は、1969年(昭和44年)、当協議会の社団法人設立を機会に、野間省一(読書推進委員長)より1000万円の寄付を受け、1971年(昭和46年)に「読書推進賞」を制定、1979年(昭和54年)に「読書推進賞70周年記念」として1000万円、1987年(昭和62年)に「読書推進賞80周年」を記念して2000万円の寄付を受け、その基金を中心として運営しているものです。「読書推進賞」は、1985年(昭和60年)より、「野間読書推進賞」と改めまし。本年度も次に掲げる要項にしたがって、実施いたします。みなさまからの推薦をまろしくお願いいたします。



野間読書推進賞賞牌

## 野間読書推進賞要項

- 1 賞 賞状および賞牌
- 2 副賞 金30万円(団体の部) 金20万円(個人の部) 金5万円(奨励賞)
- 3 受賞の対象 地域や職域などにおいて、読書の普及に永年力を尽くし、読書推進運動に貢献された個人または団体。業務として読書推進に関する事業に従事する者、また学校図書館関係は除外します。

- 4 推薦方法
  - ① 全国都道府県および政令指定都市教育委員会
  - ② 都道府県中央図書館および読書推進運動協議会
  - ③ 全国市町村教育委員会連合会
  - ④ 日本PTA全国協議会
  - ⑤ 日本新聞協会
  - ⑥ 日本放送協会
  - ⑦ 日本民間放送連盟
- 5 推薦用紙 当協議会指定の用紙をお使いください。推薦用紙および要項を入手のときは、当協議会にご請求ください。



昨年度受賞者、推薦者のみなさんと野間読書推進賞選考委員

- 6 推薦締切 2013年(平成25年)7月31日消印有効
- 7 受賞者決定まで 推薦締切後、8月下旬に15名の野間読書推進賞事業委員からなる選考準備委員会で候補者を絞り込み、9月上旬に3名の選考委員から選考委員会を開催し、団体の部、個人の部と、必要が認められた場合は奨励賞の受賞者を決定します。
- 8 選考委員 各賞の受賞者は、原則として2団体(2名)以内とします。 等原良郎 公財社団法人全国学校図書協議会顧問 小峰紀雄 株式会社 小峰書店 社長 酒川玲子 日本図書館協会 参与
- 9 結果の通知 受賞者決定後、受賞者とその推薦団体へは、すみやかに通知します。
- 10 贈賞式 2013年(平成25年)11月6日 日本出版クラブ会館にて 出版界、および図書館界の関係者(団体)、これまでの野間読書推進賞受賞者、「読書推進運動」熱心者のみなさんなどが出席されます。昨年の贈賞式の様子を、当協議会ホームページに掲載しておりますので、ご参照ください。

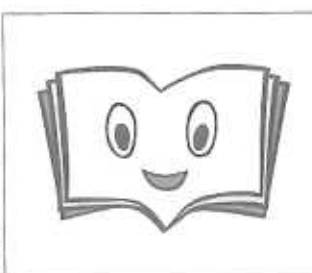
★議案書および出欠ハガキなどは5月中旬に会員にお送りします。

### イメージキャラクターは「あまちゃん」の能年玲奈さん!

■今年の「雑誌愛読月間」の概要が決定!

一般社団法人 日本雑誌協会は、今年の雑誌愛読月間(7月21日〜8月20日)の概要を発表した。15年目を迎える今年のイメージキャラクターは、NHKの連続テレビ小説「あまちゃん」のヒロインを演じている、能年玲奈さん。PRポスターや雑誌広告に登場し、キャンペーンを盛り上げる。昨年、受注総数が初めて4万部の大台に乗った「年間定期購読

キャンペーン」には、過去最多の50社誌が参加を予定している。全国5000店以上の書店にて、月刊誌の年間購読を申し込むと、1か月分が割引となる。恒例の愛読キャンペーンでは、能年さんのオリジナル図書カードを抽選で2013人に贈呈する。希望する人は、雑誌愛読月間告知掲載雑誌の応募券をハガキに添付して応募する。



「雑誌愛読月間」マーク

昨年より始まった、電子書店との相互リンクによるデジタル雑誌プロモーションは今年も実施され、紙とデジタルの両方面から雑誌の魅力と可能性をアピールする。

### 大賞は「オオカミがとぶひ」

■「第18回 日本絵本賞 表彰式」開催

3月26日(火)、東京都千代田区の毎日ホールで「第18回 日本絵本賞 表彰式(主催/全国学校図書館協議会、毎日新聞社)」が行われた。本年の受賞作は、次の通り。

- 日本絵本賞大賞 「オオカミがとぶひ」ミロコマチコ(イラスト・プレス)
- 日本絵本賞 「しるくまのパンツ」Impeta Impeta(フランス新社)
- 日本絵本賞 松本猛 最終選考委員長は、「絵本の新たな可能性に」一歩を踏み出した作品を後押しする賞にした

「シルクハットぞくはよなかのいちじにやってくる」おくはらゆめ(童心社) 「ともだちできたよ」内田麟太郎(こみねゆら(文研出版))



8回日本絵本賞表彰式 独創的な作品「オオカミがとぶひ」で大賞を受賞したミロコマチコさん

いと、選考報告を行った。大賞受賞のミロコマチコさんは、受賞を喜びながらも、「受賞は絵本を読む子どもには関係ないので忘れて、次の自分の世界を描いていきたい」と抱負を述べた。

# 大学生による大学生のための文学賞

一般財団法人 出版文化産業振興財団

人気投票に止まらせない

今年、「大学読書人大賞」は、『南極点のピアピア動物』(野尻抱介)、『ハヤカワ文庫JA』に決定した。月面探査計画に携わる日本の大学院生が、インターネット上の動画共有サービス「ピアピア動物」に集まるさまざまな人々のパワーを得て、宇宙飛行に挑戦するという表題のほか、ネットと宇宙開発の未来を描く3編の小説が収録された連作集だ。

全国の大学文芸サークルが、大学生に最も読んでほしい本を選ぶ「大学読書人大賞」は、今年で6回目を迎えた。毎年、前年の12月から4月にかけて、①過去1年間に発行された本をサークル単位で5冊選んで投票、②得票上位作品から5作品を選んで推薦文を書いて応募、③応募された推薦文から優れていると思う5作品を選んで投票、という3回の投票を経て、最終候補作品とその推薦者を選ぶ。「ただの人気投票にしたいくない」



多くの参加者の前で繰り広げられた公開討論会

「選考をきっかけに、サークル内で本について議論し、議論したい」という、大学生たちの思いが反映された選考方法である。この入念な選考の結果選ばれた6人の大学生が、それぞれの推薦本を引っさげて最終選考に臨むのが、「公開討論会」である。

## 今年の公開討論会

今年、東京・神田駿河台の明治大学の教室で、約30人の聴衆を集めて開催された。最終候補作は『いま集合的無意識を』(神林長平 早川書房)、『さよならクリストファー・ロビン』(高橋源一)、『いま集合的無意識を』を推薦した立教大学の河北雄輝さんが、「同じ最終候補作品のなかで、『南極点のピアピア動物』がネットの可能性をポジティブに描いているのに対し、『いま集合的無意識を』はその暗い面、危険性に焦点を当てているのがおもしろい。推薦者はどう思うか」と質問。対して、『いま集合的無意識を』を推薦した立教大学の河北雄輝さんは、「作者は、ただやみくもに否定しているのではなく、ネットの新しい可能性を表現していると思う。私たち学生も、ネットに使われるので



白熱の討論の末に行われる、6人の推薦者による最終投票

は、自分の意思を持って使っていくことが大事ではないか」と回答する。また、『南極点のピアピア動物』を推薦した獨協大学の齋藤史弥さんは、「この作品は、ネット上のアイドル『小鴨レイ』を結節点にして、ゆるいつながらが拡がっていき、最終的にすごいことをやってしまおうところがおもしろい。若い僕らは、そういう明るい未来を信じてもいいのではないかと発言し、会場からも質問や応援の声が上がった。

作品」の討論と、6作品全体に対する討論が終わったところで、推薦者6人による最終投票となった。大賞作品は、公開討論に参加した学生が、自分の推薦作品を除いたすべての作品に、「大賞にふさわしいかどうか」という基準で順位をつけ、その結果によつて決定する。今年の投票結果は接戦だったが、首ひとつ抜け出した『南極点のピアピア動物』が、栄えある大賞作品に選ばれた。6月には作者と学生が交流する贈賞式も予定されている。

## 大学生の読書機会を増やす

「大学読書人大賞」は、大学生有志による実行委員会が運営し、当財団がサポートしている。中学、高校、大学と年齢が上がるにつれて本との接触率が減っていくという現状のなかで、大学生の読書機会を増やすには同じ大学生からの本の推薦が有効ではないかと、この6年間大学生と並走してきた。

この間、本賞の知名度は徐々に上がってきた。全国の大学生読書販売場での受賞作品フェアは恒例になり、ネット上では勝手予想投票が行われている。さらさらには活動していた各大学の文芸サークルは、この賞をきっかけに横の連携を模索するようになった。

若者が自ら読むに値する本を探し、その本について議論し、みんなで本を選んで作家と交流する。その経験を通して、少しでも多くの「本を読む大人」が育っていくことを目指して、今後も支援を続けていきたい。

# 震災に関するあらゆる記録と教訓を、次の世代へ

国立国会図書館東日本大震災アーカイブ「ひなぎく」

東日本大震災に際しては、デジタルカメラ、スマートフォンといったデジタル機器や、ブログなどの普及により、震災に関する膨大な情報や記録が、作成・発信された。

これらの東日本大震災に関するあらゆる記録や教訓を次の世代へ伝え、被災地の復旧・復興事業や、今後の防災・減災対策に役立てるため、国立国会図書館では大震災に関する記録を二元的に検索できるポータルサイト「国立国会図書館東日本大震災アーカイブ(愛称:ひなぎく)」を、2013年3月7日に正式公開した。

## 「ひなぎく」について

本サービスは、さまざまな機関・団体の協力によって成り立っている。

まず、総務省と協力してシステム構築し、同省の支援により構築された被災地の5つのアーカイブ(「おもしろデジタルアーカイブシステム」河北新報震災アーカイブ、



国立国会図書館東日本大震災アーカイブ (http://knndl.go.jp)

国立国会図書館電子情報部 電子情報流通課情報流通係

中村 若生

東日本大震災アーカイブFukuushima、みちのく震録伝(東北大学)、陸前高田震災アーカイブNAV)と連携して、統合検索を可能とした。

また、2011年東日本大震災デジタルアーカイブ(ハーバード大学エドウィン・O・ライシャワー日本研究所)、3・11を忘れない、FNN東日本大震災アーカイブ(フジテレビジョンとFNN(フジニュースネットワーク)、NHK東日本大震災アーカイブ(日本放送協会)、震災文庫(神戸大学附属図書館)、JAEA図書館OPAC(日本原子力研究開発機構)、東日本大震災写真保存プロ

ジェクト(ヤフー)、未来へのキオク(グーグル)なども連携している。

収集テーマは、東日本大震災に関する記録(原子力災害の記録も含む)や過去に発生した地震や津波に関する記録などを対象とする。公開時点の情報総数は、約20万点にのぼる。本サービスは、紙媒体のみならず、画像、動画、音声、ウェブサイトなどの多様なデジタルコンテンツを収集対象としている。国立国会図書館が収集した、東京電力福島原子力発電所事故調査委員会(国会原発事故調査委員会)の映像や、被災自治体などの震災直後のウェブサイトなどをまとめて閲覧することができる。

本サービスのトップページには、一般的なキーワード検索のほか、カテゴリー検索(検索キーワードが思い浮かばない場合に、資料種別、提供元、場所、日付などからコンテンツの検索が可能)、検索キーワードのランキング、関

覧数の多いコンテンツのランキング、写真、音声、動画の検索(ワンクリックで、その資料種別に含まれる検索結果を表示)、地図検索(場所に関する情報を用いて、地図上に検索結果を表示)、時系列検索(日付に関する情報を用いて、タイムライン上に検索結果を表示)を用意している。

## 被災地支援の記録の重要性

今年3月、国立国会図書館と総務省は「東日本大震災アーカイブ公開記念シンポジウム」東日本大震災の記録をのこす意志、つたえる努力を、開催した。有識者によるパネルディスカッションでは、「復旧・復興の過程から生まれたさまざまな知恵もアーカイブし、次の災害からの復旧・復興においてこれらを組み合わせ活用できる、ナレッジデータベースとなることを期待される」という意見が出された。

今回の東日本大震災は子どもたちの読書環境をも奪い去った。しかし、各種団体は早く、図書館、書店などを通して、さまざまな支援を行い、現在も続けている。その支援の記録は、各団体のホームページや記録集としてまとめられているが、ここにも私たちが引



「東日本大震災アーカイブ公開記念シンポジウム」パネルディスカッションの様子

き継ぎ、活用すべき知恵や知識が詰まっているだろう。「ひなぎく」では、これらの記録も収集し、次の世代に伝えたいと考えている。

東日本大震災の発生から3年目を迎え、今後は関連する資料の散逸が危惧される。国立国会図書館は、国全体の取り組みとして、コンテンツを作成・保持する機関やアーカイブを運用する機関などに一層の協力をお願いしていきたい。

「ひなぎく」いう愛称をつけたのは、その花言葉「未来」「希望」「あなたと同じ気持ちです」に、復興支援という事業の趣旨を込めたからである。「ひなぎく」がいまなお継続する復興事業や今後の防災・減災対策に活用されるよう努力していきたい。

### 優良読書グループの歩み (5)

平成24年度の「読書週間」に際して都道府県読書協より推薦され、本会において表彰した全国の優良読書グループの活動報告を掲載いたします。(順不同)

#### 読書サークル「ライラックの会」

代表者 佐藤日路美

北海道札幌市東区  
北海道読書推進運動協議会  
(推薦)

私たちの読書サークル「ライラックの会」は、1983年(昭和58年)に発足し今年で30年になります。当初は集団読書用の本を借り、月1回の例会で感想を述べあうというのおもな活動でしたが、1985年(昭和60年)より幼児から小学校低学年を対象にした読み聞かせの会「お楽しみ図書館」を始めました。

内容は絵本の読み聞かせはもちろん、会員手作りの人形劇や影絵、エプロンシアター、ペープサートなどを行ったり、お正月にはカルタや福笑いなどの昔遊びもします。ふだんこういった集団での遊びをしない子どもたちは、とても興味深げに、時間を忘れて楽しんでくれます。

また、絵本嫌いの子にも足を運んでもらえるようにと、廃材などを利用したかんたんな工作や折り紙も毎回取り入れていきます。このコーナーを楽しみに来てくれる子どもにあわせてのものなど、会員がアイデアを持ち寄り、準備をします。同じ素材で作っているはずなのに、でき上がったものはどれも個性的で素敵な作品ばかりで、子どもたちの豊かな発想と柔軟なものの考え方に、私たちは毎回感心させられます。

そのほか、教育委員会主催の事業もいくつかお手伝いさせていただいています。生後10か月の赤ちゃんが対象の「ブックスタート」や、町内の各小学校で行われる「ブックフェスティバル」などでは、大規模本の読み聞かせや作ったあとに遊べる工作などをして、ふだんお楽しみ図書館には来られない子や高学年の子どもたちとも楽しい時間を過ごしています。数



子どもたちも本の世界に誘われ、読み聞かせ

年前には「放課後子ども教室」の協力や、PTA連合会の読み聞かせ講座の講師をさせていただいたこともありました。これらの活動や毎月読む本の感想文、さらに会員のエッセイを掲載した手作りの文集「らいらっく」を年に1回発行し、会の記録として残しております。

パソコンやゲーム機などが急速に普及し、活字離れが進む昨今ですが、私たちの読み聞かせ活動で、少しでも多くの子どもたちが本やさまざまなことに興味を持ち、視野を広げてくれることを願っています。これからも会員一同がんばって活動を続けていきたいと思っております。

#### 読み聞かせボランティアの会 おはなしばれっと

代表者 中島 誠子

千葉県東金市  
千葉県読書推進運動協議会  
(推薦)

おはなしばれっととは、1999年(平成11年)10月、東金市立東小学校の当時1年生の保護者有志により、読み聞かせの活動をスタートいたしました。

当初は1年生だけを対象に行っていました。その後毎年1学年ずつ実施学年を増やしていき、6年目には全学年全学年を対象に行えるようになりました。

その伝統はしっかりと受け継がれ、13年たったいまでも毎週火曜日、朝の読書の時間に全学年全学年級に読み聞かせをさせていただいております。

メンバーは、在学児童保護者25名、卒業生保護者12名です。仕事を持つ者、就学前の子どもを連れてくる者などいろいろな事情を抱えながらですが、子どもたちに「自分で読書をする」ときは違ふ、聞くことの楽しさ、心地よさを感じたり、想像力をふくらませ、新たな本の魅力の発見につながる有意義な時間になれば」という思いで、週1回の読み聞かせを楽しみにしてくれている子どもたちのためにも、それぞれのペースで活動を続けております。

活動の場は、現在、東小学校に限られており、毎週の読み聞かせのほか年2回、4月23日「子ども読書の日」、秋の「読書週間」に行われる「お話し会」では、いつもの教室での読み聞かせとは違ふ、エプロンシアターや朗読劇、スクリーンと音響を使った紙芝居など趣向を凝らした内容を取り入れて、子どもたちと楽しい時間を過ごしております。

全校18学級に対してメンバーが37名いるというのも、私たちの利点でもあります。読み手によって好みの本や、読み手が作り出す雰囲気もさまざまなので、子どもたちにはいろいろな絵本の世界を感じてもらおうことができると思っています。

これからも、まずは読み手である私たちが絵本の世界を楽しみ、それを子どもたちに伝えていけるよう、活動を続けていきたいと思っております。

最後に、日ごろよりおはなしばれっとの活動にご理解、「ご協力」をくださっている東小学校の校長先生

#### 色えんぴつ

代表者 野本 秀子

高知県高知市  
高知県読書推進運動協議会  
(推薦)

地元の小中学校で、朝の読み聞かせをしていた4人がおはなし会を始めたのは、2006年(平成18年)12月からでした。それぞれの個性を色に託して、グループ名を「色えんぴつ」と名づけました。

会場は、高知市民図書館・分室の三里ふれあいセンターです。センターや図書室のご支援ご協力をいただいて、毎月第2土曜日の10時30分からです。

幼児〜小1まで、小2以上のふたつのプログラムを組みました。ストーリーテリング、絵本の読み聞かせ、手あそび、そして折り紙作品のおみやげ——これは、やがて一緒に折ることになります。

毎回20人前後、多いときは30人を超える子どもたちとおとなが参加してくれました。次第に子どもたちが少なくなり、現在おはなし会は、小学生への1回のみ、その後、折り紙と工作というプログラム

2006年12月、第1回目のプログラムをご紹介します。

●幼児〜小1  
おはなし「ママ子と魔物」、絵本「まじこからくりもの」、「ちいさなろぼ」

●小2  
絵本「サンタクロース」ってほんとにいるの、「クリスマスマスものがたり」、おはなし「十二のつぎのおくりもの」、おみやげ(クリスマスツリー)

最初のころは、子どもたちがたくさん来たからどうしようかと心配でしたが、最近はおとなも来てもらえる工夫をしなければ、と考えています。

高知市の小規模な図書室での、小さなおはなし会。顔見知りの子どもたちと過ごす楽しい時間。語り手の私たちこそ、癒されていると感じます。

「色えんぴつ」の「絵本とおはなしのじかん」です。

生をはじめ、先生方に心より感謝申しあげます。

#### 五荘文庫コロポックル

代表者 平田みどり

兵庫県豊岡市  
兵庫県読書推進運動協議会  
(推薦)

この会は、市立図書館の講座で昔の知りあいが出会う、地区内に文庫を開きたいという熱い思いを抱く、子どもと絵本が大好きな女性6名が意気投合し誕生しました。地区公民館を活動拠点に1年の準備期間を経て、2008年(平成16年)4月に第1回コロポックルおはなし会を開催しました。会名の「コロポックル」は、童話作家・佐藤さとる氏の「誰も知らない小さな国」に登場する、大きな路の下に住む小人たちから名づけています。

活動内容は、おもに小学生までの親子を対象とした絵本の読み聞かせ(対象者別に3グループ)と、集団あそび(わらべ唄、お手玉、ゲーム、体育遊び、手遊びな



子どもだけでなく、大人も参加を楽しむおはなし会

ど)や制作。年に一度は会員によるペープサートや寸劇、エプロンシアターを取り入れるなど、より楽しめるよう工夫しています。

また、会の啓発資料として、行事案内や季節の詩、子育てに役立つ情報などを掲載した通信誌を発行(月1回)し、文庫の環境整備にも力を入れています。蔵書冊数は児童書1000冊を超え、例会のたびに貸出も行っています。

現在、おはなし会の開催も2012年10月)を数え、0歳から小学生の異年齢の子どもと大人が賑やかに参加する光景は、子どもたちが群れになって遊ぶ機会が少なくなった現代において、陽だまりのような温かさを感じる幸

せなひとときです。参加者数は年々増加傾向にあり、近年は父親の参加も目立つようになりました。

活動するなかで、会員にとってなによりうれしいことは、読み聞かせが思いもよらなかったたくさん効果を生んでいることです。例えば、本に集中できずに泣いたり歩き廻っていた子どもが、回を重ねることで楽しんで参加するようになったこと。また、参加者同士の繋がりが増えて、おはなし会が友だち作りの場となっていることなどです。

少しでも地域のお役にたてばという思いもあり立ち上げた会ですが、いまや自分の私たちが参加する子どもや家族から元気をもらい、教わることも多いように思っています。

もうすぐ10年を過ぎた節目を迎えます。会員数も13名に増え、活動範囲が小・中学校や子育ての会、さらに他地区へと読書の輪を広げるなか、これからは勉強と反省する心を忘れず、子どもたちと共に育ちあう会として、また地域の心のよりどころとして、会員一同、いっそう充実した活動となるよう取り組んでまいります。

贈りものは図書カード。名画シリーズ 1000円・3000円 5000円・10000円 http://www.toshocard.com



ホントノキズナ

読書週間

—昨年の読書週間ポスター—

# 2013年 第67回 読書週間

(10月27日～11月9日)

## ポスターイラスト 募集!

### 標語

2013年第67回「読書週間」のポスター用イラストと標語を募集します。このイラストと標語は、7月上旬および8月上旬に公益社団法人 読書推進運動協議会の事業委員会が最終決定し、「読書週間ポスター」を製作、全国の新聞社や雑誌出版社、都道府県の各読書推進運動協議会を通じて公共図書館や公民館へ。そして、全国の小学校、中学校、高校や書店などに送られ掲出されます。

#### ●イラスト 応募要項

- ①作品テーマ「読書をテーマにした未発表の創作原画。ジャンル・表現は自由。文字は不要。
- ②作品サイズ B4判(約36×25センチ) たて長に限る。
- ③用紙と画材「自由。CG作品はプリントアウトしたもの。ただし、立体・半立体・写真・コピー不可。
- ④出品点数 1人1点
- ⑤応募方法「作者氏名、郵便番号、住所、年齢、電話番号、学生は学校名を明記した紙を作品裏面に添付して応募ください。
- ⑥締切「平成25年6月28日(金)必着
- ⑦第一次審査は、デザイナーによる審査委員会が担当。
- ⑧賞「大賞1名(賞金10万円、ポスターに採用)」「優秀賞3名(賞金1万円)」「入選10名前後(記念品)」
- ⑨発表「当協議会機関紙「読書推進運動」9月発行号紙上とホームページなど。入賞者には直接通知。
- ⑩送り先「〒100-0828 東京都新宿区袋町6 日本出版クラブ会館内

公益社団法人 読書推進運動協議会  
「読書週間ポスターイラスト」係  
〒100-0828 東京都新宿区袋町6 日本出版クラブ会館内  
TEL 03-3260-3071

#### ●標語 応募要項

- ①標語案「読書の豊かさ、奥深さ、楽しさ、有用性などを新鮮な感覚で表現した未発表のもの。
- ②応募用紙「官製はがき(またはA4判フックス用紙)、メール。
- ③応募作品数「1人3作品まで。同じ用紙に3作まで連記可。返却はいたしません。
- ④応募方法「作者氏名(フリガナ)、郵便番号、住所、年齢、電話番号、職業を明記して応募ください。
- ⑤締切「平成25年6月28日(金)必着
- ⑥賞「入選(1件) 図書カード1万円」「次点(2点) 図書カード5千円」「佳作(20件前後) 図書カード2千円
- ⑦発表「入選、次点までは当協議会機関紙「読書推進運動」9月発行号紙上とホームページ、佳作は発送で
- ⑧送り先「〒100-0828 東京都新宿区袋町6 日本出版クラブ会館内

公益社団法人 読書推進運動協議会「読書週間 標語」係  
TEL 03-5229-1560  
e-mail info@dokusyo.or.jp  
これらの募集による入選作の著作権は、公益社団法人 読書推進運動協議会に帰属します。

### 事務局報告(4月)

- ・2日「日本教育新聞社」選別教育資料より小倉忠長インタビュー
- ・2日「伊藤忠記念財団」と「子ども文庫助成」について打ち合わせ
- ・6日「東京国際ブックフェア」出展説明会」に出席
- ・8日「東京新聞」より「子どもの読書週間」広告企画の打ち合わせ
- ・9日「大光堂書店」と「読書推進運動」について打ち合わせ
- ・9日「日本出版クラブ」と「東北の力を学ぶバス・スタディツアー」について打ち合わせ
- ・9日「伊藤忠記念財団」と「子ども文庫助成」について打ち合わせ
- ・10日「機関紙「読書推進運動」(55号) データ入稿
- ・10日「絵本ワールドinとちぎ」の実施報告を受け取り
- ・10日「公益社団法人 読書推進運動協議会」の登記完了
- ・11日「社団法人 読書推進運動協議会」の解散を文部科学省に提出
- ・15日「機関紙「読書推進運動」(55号) 発行
- ・15日「国際子ども図書館」を考える全国連絡会議「研究委員会」に出席
- ・18日「大震災出版復興基金」について内閣府と打ち合わせ
- ・19日「学校図書整備推進会議」運営委員会(おのり会)」に出席
- ・19日「新地学文社文芸事務士事務所」打ち合わせ
- ・23日「平成25年度第一回事務理事会」開催
- ・23日「子ども読書活動推進フォーラム」に出席
- ・24日「回覧子ども図書館を考える全国連絡会議委員会」に出席
- ・25日「大震災出版復興本部運営委員会」に出席
- ・26日「第7回選別書籍コンクール審査会」に出席

#### ●編集部 & 事務局の

#### ひとこと

●「ゴールデンウィークに「上野の森親子フェスタ」が開かれ、噴水のまわりは人の波で埋まっています。作家の方々のサイン会には行列ができて、立ち話のグループからは、「ピリオパトールの単語……」「チャリティ・ブック・フェスティバル」の売り上げは、いままでもっとも大きかったそうです。収益は被災地の子ども読書活動の支援に充当するそうですから、明るいニュースです。

●「子ども読書活動推進フォーラム」で島田洋七さんが講演。「図書館はもつとにぎやかでもいいんじゃないか」など、やや毒のある漫才師ならではのトークで、会場は爆笑の渦。「佐賀のばいばあちゃん」(徳間文庫)は世界各国に翻訳版が出ているそうです。ちなみに、島田さんの講演は、この日で4422回とか。

●当協議会あてに、全国各地から会報が送られてきます。これも、目ざりと光る記事があふれていて、目をとすのが楽しみです。今月の「熊本子ども本の研究会」の会報「子ども本の研究所」の「私の好きな本」には、「一旦辞するするにあたり」(NHK出版)が紹介されています。98歳で亡くなった作家の杉原華郷さんが、妻の和子さんあてに記した「言葉二冊辞するにあたり」に感謝します。水らくお世話になりました。有難く存じました。筆ではなく鉛筆で書かれた文章に、妻への愛情と厳格な人間性を感じて手に取られたという斉藤佳津恵さんの「背筋の伸びる思いの一篇」との紹介文を見て、この本を読みたくまりました。(文)